

1 本年度の重点教育目標

- (1) 生徒の希望を叶える進路の実現
(2) 充実した特別活動を通し、豊かな人間性とたくましく生き抜く力の育成
(3) 地域の発展を支える人材の育成

2 本年度の取組の重点

- (1) 主体的に学び、考え、変化する社会を生きていける資質・能力を育成する。
(2) 多様な人々と協働し、主体的に社会の発展に寄与しようとする意欲や態度を育成する。
(3) 失敗を恐れずに挑戦し、自分の特性・能力に気づき、成功体験を重ねることで主体性・自己肯定感を育成する。
(4) 地域を世界的視野でとらえ、郷土愛を持ち、地域の繁栄のために行動できるグローバルな人材としての素養を育成する。

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
学校経営	生徒の実態や保護者、地域社会の願いを踏まえた教育目標になっている。	a	生徒や保護者の願いを踏まえ、引き続き、教育目標の検証・改善に努めていく。	A	A	教育目標や指導方針は保護者・地域にも周知され十分説明がなされている。今後も積極的に保護者・地域の意見を吸い上げ、学校運営に反映させていく必要がある。
	教職員の服務規律が適切に保持されている。	b	不祥事防止に関する研修を充実させ、当事者意識を高める。	A	A	
教育課程 進路指導	単位制の趣旨を生かし、進路実現に結びつく教育課程が編成・実施されている。	b	新教育課程の完成年度に向け、問題点や改善点について検討していく。	B	B	本校の単位制の在り方について検討を進め、学習指導の効果を高めていく必要がある。また、観点別評価など生徒の意欲を高める指導を進めている。
	わかりやすい授業を行い、自ら学ぶ意欲を高めるなど教科指導の工夫に努めている。	b	生徒の理解度を高める指導の工夫が必要である。	B	B	
生徒指導	校内外における生徒の実態把握に努め家庭・地域社会・関係機関との連携の上、一人ひとりに対応した指導が行われている。	b	引き続き、一人ひとりの生徒の特性を理解し、自己肯定感・自己有用感が高められるような指導の充実を図っていく。	A	A	生徒の自主性・自立の意識は高く、それを育てる指導がなされている。PTAや保護者・地域が積極的に学校活動に関与し、地域との連携に繋がっている。
	交通安全指導が適切に行われている。	a	他校とも連携し、交通安全に係る啓蒙活動を充実させる。	A	A	
進路指導	総合的な探究の時間などを通じ、自己の生き方を考える姿勢を養い、夢に向かって挑戦する志を涵養する。	a	課題研究論文や地域探究学習等について教科横断的な指導となるよう進めていく。	A	A	3年間を見通した進路指導の全体像について、生徒や保護者に対するガイダンスの充実が必要である。生徒の希望や意思を尊重した指導に取り組んでいる。
	進路選択のためのガイダンスが効果的に機能している。	a	3年間を見通したガイダンス計画を検証し、系統的・継続的な指導をより一層充実させる。	B	B	
健康・安全指導	教育相談等を通して生徒の抱える悩み等に適切に対処している。	a	サポート委員会（サポートチーム会議）で情報を共有し、生徒の指導等に役立てていく。	A	A	SC から得られた情報を共有するなど個々の生徒理解を充実させている。
特別活動	生徒会行事、部活動等に全教職員の協力が得られ活性化されている。	a	コロナ禍の中であったが、感染対策に留意しながら、本来の活動に近づけていく。	A	A	コロナ禍で活動に制約がある中、生徒会行事が生徒主導で行われている。
地域との連携	保護者や地域からの意見を積極的に聴取し学校改善に役立てている。	b	学校運営協議会（CS）の中で保護者・地域等から広く意見を聴取し、学校運営に反映させる。	B	A	「函館学」を中心に、他の教育活動においても、地域との連携を中心に取り組んでいる。
	「函館学」を通して、生徒に郷土を愛する気持ちを養っている。	a	学校運営協議会（CS）等から意見をいただき、引き続き「函館学」の充実に努める。	A	A	

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。

